

大洗研究開発センター燃料研究棟 における汚染について

平成29年6月9日

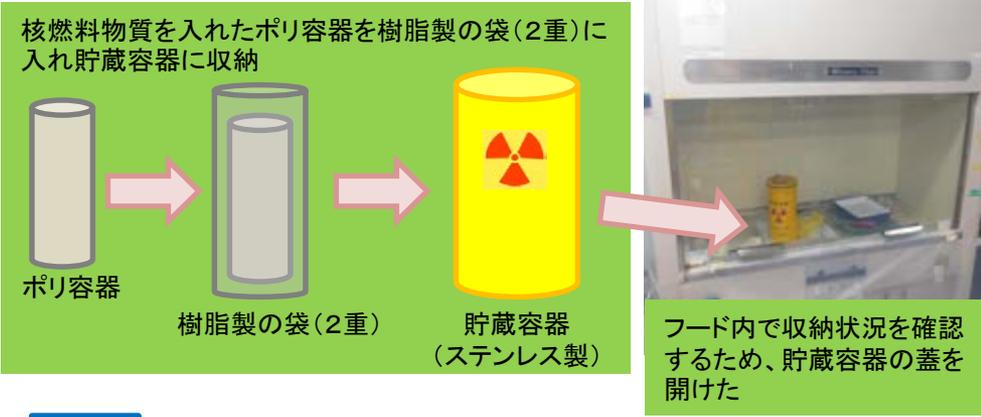
国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

概要

平成29年6月6日(火)11:15頃、燃料研究棟の108号室(管理区域)で、作業員5名がプルトニウムとウランの入った貯蔵容器をフード内で点検していたところ、樹脂製の袋が破裂して汚染が発生した。

時系列

- ・燃料研究棟は、高速炉用新型燃料等の研究を行う目的で昭和49年度に建設された。
 - ・昭和52年度から、プルトニウムを使用した試験を開始した。
 - ・平成3年10月に核燃料物質(プルトニウムとウラン)を当該貯蔵容器に収納し、貯蔵を開始した。
 - ・平成25年度に施設の廃止の方針を決定した。
 - ・平成29年2月から、核燃料物質の管理状態を改善するための作業の一環として、既存貯蔵容器(80個)の空き容量等の確認作業を開始した。
 - ・**32個目の確認作業中に発生した。**
- 6/6(火)
- 11:15頃 貯蔵容器内の樹脂製の袋が破裂
↓ 汚染拡大防止措置(退室用ハウスの設置)を実施
 - 14:44頃 作業員の鼻腔内汚染検査開始
最大24Bq(α 線)を確認
 - 23:33頃 原子力機構において、作業員5名の肺モニタ測定を終了、最大で以下を確認
Pu-239: 2.2×10^4 Bq、Am-241: 2.2×10^2 Bq
- 6/7(水)
- 11:55頃 放射線医学総合研究所にて内部被ばく検査を開始



現況

現場は、以下のとおり維持管理されている。
フードの前面カバーを閉め、負圧を維持している。

- ・TVカメラによる常時監視
 - ・プルダストモニタによる常時監視
 - ・エリアモニタによる常時監視
- 数値に異常は認められない。

今後の対応

- 現状把握と現場復旧
室内の汚染状況を確認する。
- 原因究明と再発防止対策
機構大での体制を整え、総力をあげて対応する。
- 法令報告対応
平成29年6月19日までに原子力規制委員会へ状況及び処置を報告する。
- 内部被ばく評価と対象者へのケア
放射線医学総合研究所と協力して、しっかり対応する。
- 情報公開
新たな事実については、正確かつ迅速に公表する。